

4. 大阪圏の商業地

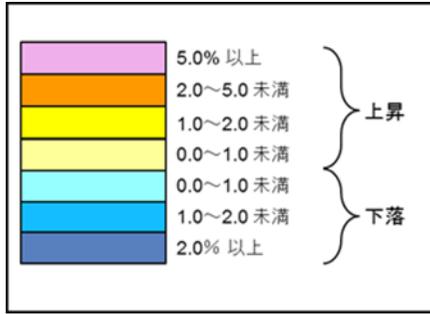
※（ ）は前年変動率

京 都 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 京都市では、12.5%上昇（10.3%上昇）。国内外の観光客の増加等を背景に、全ての区において上昇が続き、上昇幅が昨年より拡大した区が多く見られる。 ○ 京都市の周辺では、上昇が続いている市が見られる。
大 阪 府	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪市では、8.4%上昇（8.0%上昇）。福島区、西区、北区、中央区など多くの区で上昇が続いており、うち7区で上昇幅が昨年より拡大した。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 心斎橋・なんば地区では、外国人観光客の増加等を背景に、高い上昇率を示した。 ○ 堺市では、5.6%上昇（3.0%上昇）。調査地点のある全ての区で上昇が続いており、上昇幅が昨年より拡大した区も見られる。 ○ 北部地域では、上昇が続いており、吹田市、高槻市、豊中市及び茨木市で上昇幅が昨年より拡大した。 ○ 南部地域及び東部地域では、下落が続いている市が見られるが、多くの市で上昇している。
兵 庫 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 神戸市では、5.7%上昇（4.2%上昇）。全ての区で上昇が続いており、上昇幅が昨年より拡大した区も見られる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央区では、三宮地区の再整備基本構想の策定（平成27年9月）を受けた民間開発の動きの高まりや投資対象としての需要の強まりから上昇幅が昨年より拡大した。 ○ 阪神間の地域では、上昇が続いている市が見られる。
奈 良 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 奈良市では、3.0%上昇（1.7%上昇）。外国人観光客の増加等を背景に、上昇幅が昨年より拡大した。

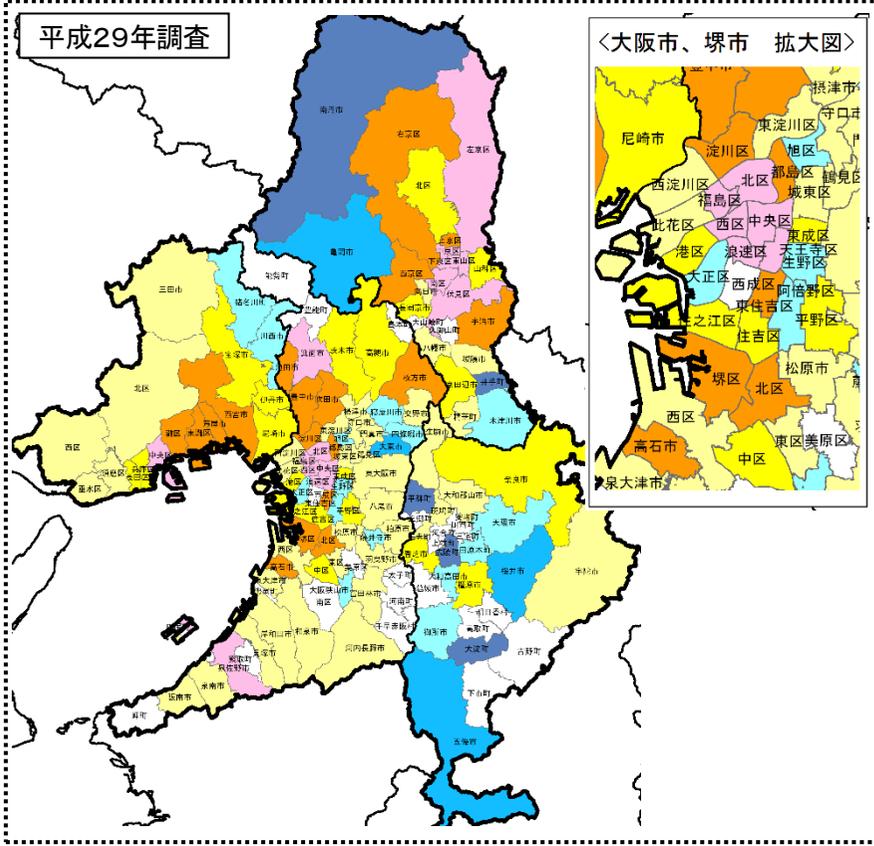
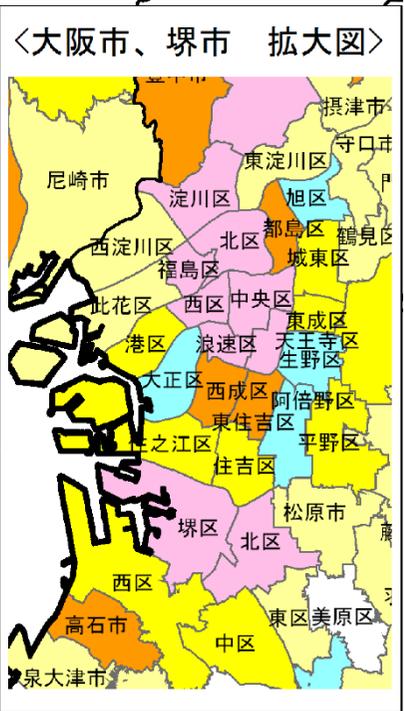
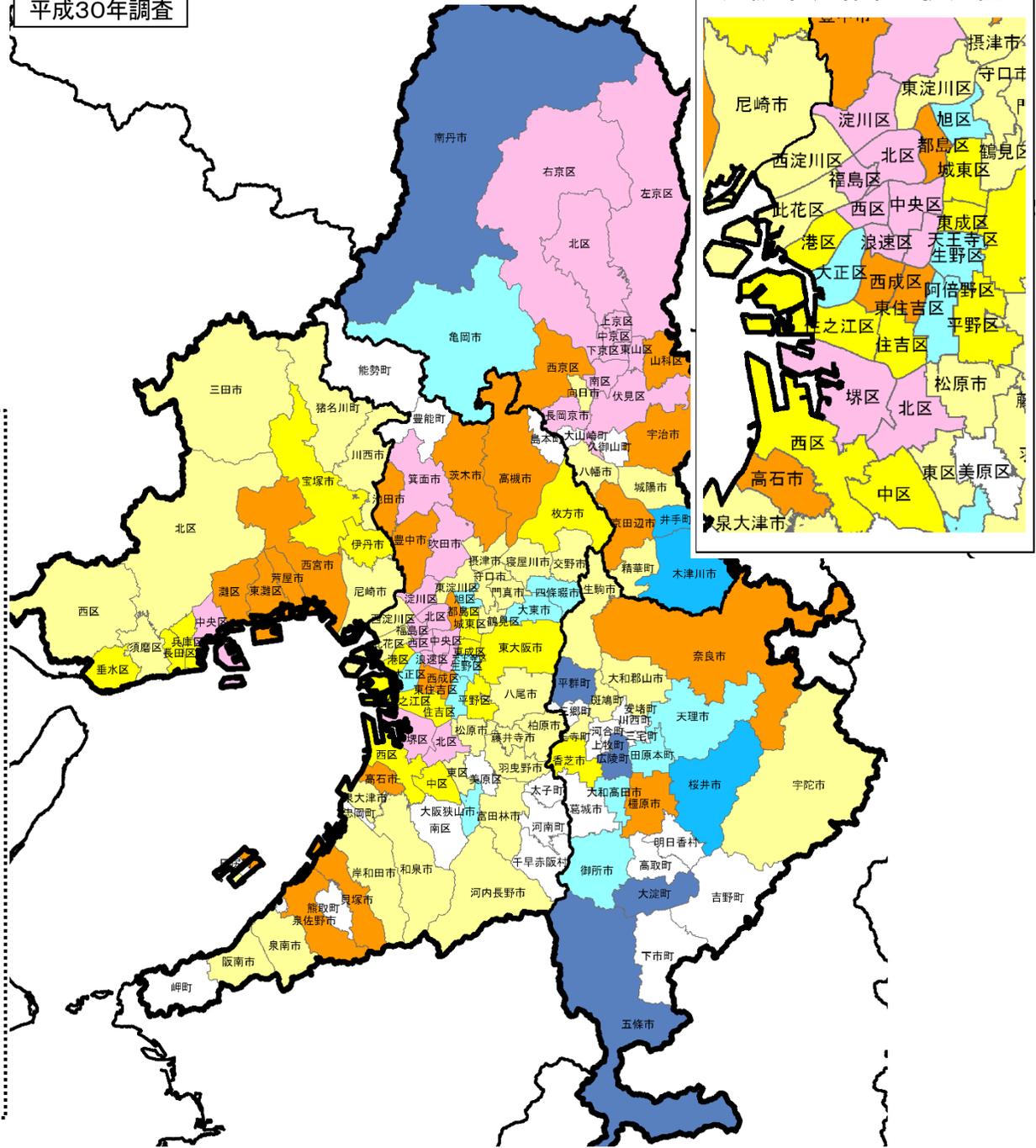
奈 良 県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北部地域では、上昇が続いている市が見られる。 ○ その他の多くの市町では、下落が続いている。
-------	---

市区町村別の状況（大阪圏・商業地）

平成30年調査



※変動率0.0%の場合、小数点第2位以下の数値を考慮し、色分けをしている。



※圏域内の白色部分は、継続地点が設置されていない市区町村である。